

2024年7月31日（水）

老球の細道817号

## 7月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

米国のバイデン大統領がやる気十分であったのに、高齢のために周囲から引退を強く迫られ次期大統領選を辞退することになった。同じ老人として引き際を注目していたが、どこかの誰かさんみたいに「誰でも年をとるんだ。バカ野郎！」の捨て台詞が出なくて良かった。

世界中がコロナではなく戦火の中でパリ五輪の聖火が灯された。日本バスケット代表の合言葉は「SHOCK THE WORLD（世界を驚かせろ）！」だ。一次リーグから強豪相手に厳しい試合が続いているが、男子の対フランス戦で兆候あり。暑さの中でさらに熱くなれる。

### 1・テレビから

◆「自分の子どもの能力は過小評価すべからず」〈『偉人 敗北からの教訓 信長と道三』BS11〉：未熟だった子どもの頃を知るので、子どもの能力を過小評価した斎藤道三は息子に寝首を掻かれた。私も現役コーチ時代、対戦チームの息子に3Pシュートで寝首を掻かれた。

### 2・読書から

◆「汚れたものはひとつもない、ただし汚れていると思うものにとっては汚れている（パウロの言葉）」〈『人類の知的遺産・カルヴァン』久米あつみ著：講談社〉：見る人の受け止め方で物事はどうにでも変わる。ピグマリオン効果、結晶作用、プラス思考は指導者に必須。

◆「詩人は埋葬される時にすら、直立したまま棺に入ることを希望する。おれは垂直人間おれは水平の人間にとどまるわけにはいかない」〈『持続する志』大江健三郎著：講談社文芸文庫〉：言葉を操ることを生業にする人の猛々しいメンタルはスポーツ人にも劣らない。私も棺桶に入る時はトリプルスレットポジションでおじゃましたいと願う。なんちゃって！

### 3・新聞から

◆「当たり前なことだが、自分が楽になるということは、誰かが代わりに大変な思いをしているということだ」〈朝日：声〉：子どもが夏休みになり毎日学童保育に通わせる母親。給食が亡くなり弁当を作る大変さを知る。その後宅配弁当を利用するようになって楽になったが、弁当工場で働く祖母が学童宅配のために夏休みがなくなったという。感謝、感謝。

◆「男女の別なく競える競技の採用や考案が、今後重要になるだろう。男女の二元論から性を幅広くとらえる物差しへ、社会の変化にスポーツも歩調を合わせる努力は欠かせない」〈朝日：社説〉：バスケットチビッ子大会の「マイクロミニ（1，2年生）」部門は男女混合。

◆「手強い不正義をそのままに、叩きやすい相手を皆で叩く。そんな空気を懸念する」〈朝日：天声人語〉：エースのミスには寛容。控えでおとなしい選手のミスを皆でなじる。ダメなチームの典型である。上の間違いを指摘できる人を「人材」という。人材を育成する。

◆「学ぶことは手段か、目的か。それは日本の近代にまつわりついてきた問いでもある」〈朝日：日曜に想う〉：教育は立身出世のためか。教養は「ビジネスに役立つ」ために必要なのか。爺になってからさらに今日用（用事がある）、今日行く（行く所がある）が必要になる。